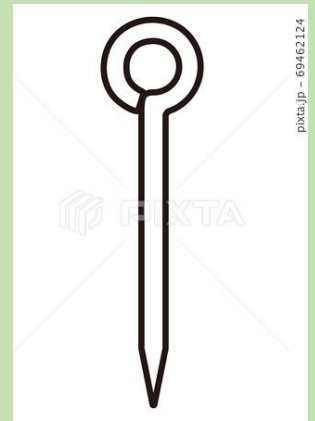


【杭を抜く。正解はあるのか】

校庭に体育発表会で使った杭が何本か残っていたので、そうじの時間に1年生の何人かに手伝ってもらい抜くことにしました。

作業をしながら、1年生の働きぶりを観察していると、杭の抜き方に今までの生活体験が垣間見られたような気がしました。

A君は力を込めて杭を抜こうとしました。しかし、なかなか抜けません。すると次には杭を前後左右に揺さぶって抜こうとしました。すると杭の周りに隙間ができて杭がすっと抜けました。杭が抜けた達成感でA君の顔は満足感でいっぱいです。



B君も力を込めて杭を抜こうとします。しかし、なかなか抜けません。力では抜けないことがわかると、次は杭の周りを掘り始めました。素手で掘るのでなかなか杭は抜けないのですが、それでも必死にチャレンジします。あきらめません。そして、抜けた時の顔は満足感でいっぱいです。

この様子を見ていた時、私はA君の生活体験の豊かさを感じたのですが、いや、今このように文章にしてみると、B君も良き体験を積んでいるのではと思えてきました。

私はこの作業をしている時に敢えて「こう抜くといいよ」などというアドバイスは一切しませんでした。しかし、A君の抜き方を見て「これが一番抜きやすいよね」とは思っていましたし、B君の抜き方は能率が良いとは言えないし、他のものを抜くという動作への応用もしづらいなあと思っていました。そして、「生きて働く力」としてはA君のやり方を体得して欲しいとも思っていました。

では、B君のやり方は「だめ」なのでしょうか？

B君は杭を抜くという目的も果たしたし、抜けたことへの満足感も持てました。ならば、それで良いのではないかと。効率とか、能率とか、そんな価値観のみで子どもを見そうになっていた自分に、この「つぶやき」を書いていて気づかされました。“答えはどんなときも1つではない”のです。

〇で囲んだ木。何に見えますか？
今日、子どもと外を歩いていた時に偶然見つけて「校長先生、何に見える？」と訊かれ「あひるかなあ」と、応えたのでした。ありきたりな回答に〇〇君は「そうだね」と一言。
もっと、気の利いた一言を……浮かびませんでした（残念）。



「ふしぎに思うこと」
ぼくがふしぎに思うことは、ぼくの弟が好き
なヒーローのダンスを弟がとつぜんおどるの
がふしぎに思いました。多分、ぼくはその歌を
弟が好きになって、さらに、そのダンスを好き
になり、とつぜん、おどりだすようになったと、
ぼくは思いました。
これをはじめてみた時、ぼくはわらっちゃい
ました。なぜかという、さいしょはへんなお
どりだったからです。だんだん上手になってき
ていきます。ちゃんとやってからおどってほし
いです。（H君）
弟がなぜダンスをおどるのかをふしぎに思っ
て考えてみたのです。 「ちゃんとやってから
おどってほしい」のは、とつぜんだから
びつくりしてしまうからなのかな？それ
とも見逃さないように、ということかな？
先生も、こんなことが不思議に思っ
ちゃいました。